

a book round about

THELONIOUS MONK



セロニアス・モンク生誕百年記念

モンク・ブツク



2017.10.10

「目次」

木漏れ日のセロニアス（写真）

※

モンクス・ノート（写真）

海に潜ったピアノ弾き（詩）

モンク（ペン画）

セロニアス・モンク（詩）

夜明け（バステル画）

ソロ・モンク（詩）

モンク陶像（珠洲焼）

※

モンク（鉛筆画）

夢／Tシャツ／看板／幻聴／回転（短章）

モンク（墨絵）

乗り物（断章）

小惑星（断章）

ミステリオーズ（断章）

帽子（断章）

小品（断章）

花とピアニスト（陶像）

モンク、絵と詩と（断章）

女性（断章）

セッション　ピリー・ホリデイ・メモリアル（陶像）

※

モンクの指輪（詩）

モンクの指輪・続（詩）

モンクを巡って（詩）

モンク1（葉書絵）

夢男（詩）

モンク2（葉書絵）

モンクなひと（詩）

四葉とモンク（ペン画）

ぶらぶら（詩）

花とピアニスト2（陶像）

ピアノ・ソロ（俳句）

セッション 船筆筒セッション（陶像）

※

六角文庫通信ブログ（抜粋）

マリカの野草画帖（抜粋）

六山人ツイッター（抜粋）

※

ジャイアンツ・オブ・ジャズ（詩）

ピアニスト（陶像）

寒波、寒波（詩）

セッション 生誕百年メモリアル（陶像）



海に潜ったピアノ弾き

——わが未完のファンタジー

一音叩いて

海に潜ったままの

あの

ピアノ弾きは

どうしてる？

それが

あのまま潜ったきりで

海から還ってこないが

じつは、その話は

まだ書いていないんだ

困ったものだな

どいつもこいつも

ポロンと

遠く響かせて

自分の世界に籠ったまま

お客は余韻に浸ったまま

それがいいんだ

まだしばらくは

瞑想も思索も続くだろう

いずれ

ぶかりと浮かび出て

ひと節ふた節

すてきな音を弾くだろう

そしたら

話を書くというのか

よくもこんな沈黙に

みなさん

溺れないで済むものだな

しっ！

音は響いているんだ

みんな

琴線を震わせて

てんでに今を

……鳴っているんだよ

モンク

音座マリカ ペン、インク



セロニアス・モンク

一音叩けば

空間は歪む

一音叩けば

時間も歪む

いつもそこに居るのに

不意にピアノが鳴り

奇妙に

唸ったり

踊ったり

空間にもつぼはある

そこを見事に外して

この高僧は

空に星でも啄むのか

海に島でも弄ぶのか

ひとり

飄々と打鍵する

帽子と

煙草は

いつもの通り

奇妙に

時間も馴染んだ頃

ピアノは

不意に消えたりする

夜明け　ーセロニアス・モンク
音座マリカ　パステル・グワッシュ



ソロ・モンク

五〇億の中の
一個の

思惑

青く

地球に似て

ソロ・モンク

浮沈し

去来し

明暗する音

黙々と

鍵盤を打ち

宙を打つ

遙かな

一個の

思惑

暗く

星雲に似て

ソロ・モンク

モンク陶像

音座マリカ 珠洲焼

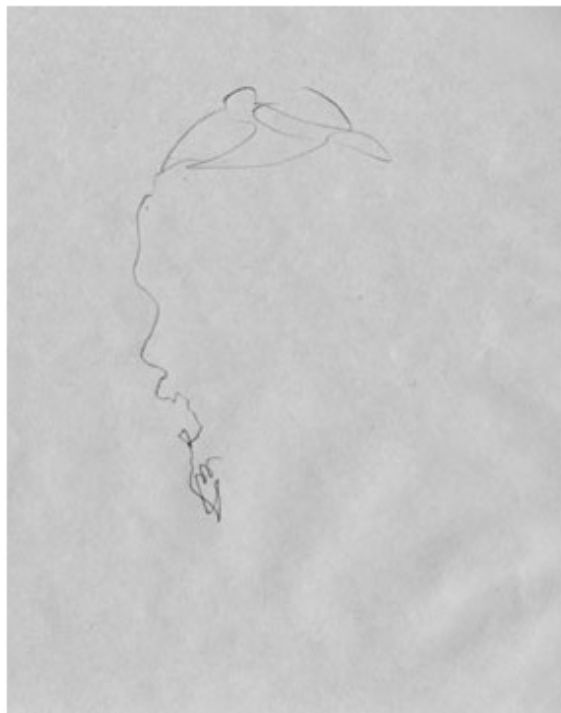


＜ monk's music ＞

＜ UNDERGROUND ＞

＜ something in blue ＞

セロニアス・モンクには煙草が似合います。



夢

モンクが椅子の上で踊っていた。

若いモンク。

痩せたモンク。

ぐるぐると回っていた。

ぐるぐると右回りで…。

Tシャツ

モンクのTシャツを一枚持っている。

看板

ジャズ喫茶「YORK」の看板がモンクの横顔である。

幻聴

モンクの弾く「星めぐりの歌」

回転

時計回りのことを、モンク回りという。







乗り物

「モンクス・ミュージック」のラジオフライヤー、
「アローン・イン・サンフランシスコ」のケープル・カー、
「ソロ・モンク」の小型飛行機（グライダー？）と、
モンクには乗り物のジャケッが多い。リズムが独特のモンクならではの趣向だろう。



演奏するモンクの両手と右足の動きは素晴らしい。寡黙なイメージとは裏腹に、その音数以上のダイナミックなスタイル。リズムという生き物が踊り出たくってうずうずしているようなフォームから、こっつとばかりに鍵盤に打ち込んでいく音。モンクは指も足もよく躍る。

音楽もまた乗り物であるだろう。ことに、リズムセクションは。ジャマイカのレゲエシーンには、ロビー・シエークスピア（b）とスライ・ダンバー（d）の二人による極上

のタクシーがあったが、セロニアス・モンク・トリオの乗り心地はどうか。彼のピアノが苦手という人も少なくないから、モンク酔いするミュージシャンもいるかもしれない。そう言えば54年のクリスマス・イヴにはマイルス・デイヴィスがモンクの運転を断ったことがあった。

小惑星

宇宙にポツンと、モンクの一音が置かれて、地球の外を回っている。肉眼では見ることも聴くことも出来ないが、四年周期で太陽を回っている。

置いたのはジャズ・ファンの天文学者ジョー・モンターニ。セロニアスと名付けられたのは小惑星番号一一〇九一で、一〇四二六番にはチャーリーラウズと名前がついた。

小惑星は大概小さなジャガイモのような、ゴツゴツした形。そう言えば、モンクのゴツンと弾くピアノもそんな感じだな。

ミステリオース

ジャズを聴き始めた頃、帰省して母の実家に遊びに行った。一軒の店もない、裏山をぶらぶらするだけが楽しみの田舎だった。従弟がいて大きなステレオセットを持っていた。レコードは、というとブック型の十枚組みポピュラー全集が一巻あるのみ。そのなかにセロニアス・モンクの「ミステリオース」が入っていた。

小さい頃からの無い無い尽くしの鄙の地でジャズを聴く不思議な違和感。しかもその頃まだ馴染みの薄かったモンク。ハーモニもメロディもへんてこりんでエキゾチック、何やら妙なモンク酔いとでもいうような感覚に包まれてしまった。

その時に聴いたので他に覚えているのはジュリー・ロンドンの「日曜はいやよ」だけ。モンクが入っているなら、マイルスやロリンズもあったらうと思うが記憶にない。次に行った時には、新品のステレオは雷で壊れて、放置されていた。

たった一回思いがけない場所で聴いた「ミステリオース」。この曲は、数あるモンクの曲の中で、格別に神秘的。

帽子

子供の頃はたしか帽子を被らなかった。丸坊主の多い田舎で珍しく長髪にしていたせいもあるのか、野球帽も持っていなかったと思う。中学に入って初めて学帽をかぶり、高校卒業まで。どちらかと言えば帽子嫌いだったのかもしれない。

それが帽子好きの女性と一緒に暮らして、帽子好きのセロニアス・モンクのファンになった。気が付けば、帽子がなくては表に出て行けず、部屋の中でも被ったままいたりする人間になった。ま、寒い北国に長く暮らしたこともあるだろう。

モンクはいつでも帽子を被っている、とつい思いがちだが、ジャケットを調べてみると、案外そうでもない。特に初期から中期は。後年もっぱら愛用の中国帽のモンクが一番馴染み深い。鳥打帽だって、ソフト帽だって、麦藁帽だって似合うのだけれど。

小品

モンクには小品をさらりと弾いたものがあり、妙に味がある。

「Bye Bye When The Morning Comes」

「Sweetheart Of All My Dreams」

「Meet Me Tonight in Dreamland」

かの『Monk's Music』には W.H.Monk という同姓の作曲家の賛美歌「Abide With Me」を敬虔に演奏してから、セッションに入る。誰にもアドリブを許さない。これは

「Crepuscule With Nellie」でも同じ。この曲はモンクが愛妻ネリーに捧げた賛美歌なのである。

スタンダードをあまり弾かないモンクが珍しく愛奏している曲が「Just A Gigolo」。音楽の仕事のない時代を支えてくれた夫人への、これも賛美歌のように聴こえてくる。

最初に挙げた三曲は、いずれも短い演奏で、モンクは慈しむようにメロディをなぞっている。オリジナルの「Nuttie」

「Reflections」 「Epstrophy」などのぶっきらぼうな命名と

対照的に、これらのタイトルはロマンティックに響く。鬼才・異才とうたわれるモンクは案外に隠れたロマンティストなのであるかもしれない。

こういうモンクが好きで、だから宮沢賢治の「星めぐりの歌」を弾いて貰いたい、と夢見るのである。





Monkish

Monkist

Monkism

絵

モンクの曲には他にはない得難い魅力でもあるのか、多くのプレイヤーが演奏する。ジャズ以外にもクロノス・カルテットがチャレンジしていたり、ロック畑のアーチスト中心で二枚組のオムニバス・アルバムもあった。演奏心をくすぐって、いざやるとこれがなかなか難しいそうだ。

同じように、絵を描く者を、モンクの風貌は誘惑する。線や面の素敵な形象がそこにあるからで、それを自分の感覚で試してみたくなる。モンクなら、なにかいい絵が描けそうな気がする。気がするだけで、いざ描いてみると難しい。どんなにモンクらしくなっても、それだけだと本物の方が優る。モンクらしさがなかったら、これはお話にならない。モンクの曲を演奏したことはないが、多くのミュージシャンも同じ様な感慨を持つのだろうか。

モンクの枠から自由で、なおかつ十二分にモンク的であり、新しい一つの世界になっているような作品。バド・パウエルやディック・ツワージクの弾く「ラウンド・ミッドナイト」とまでは望まないが、いつか、そんな一枚を描いてみたいものだ。

詩

絵は単にモンクを描いてみたいという気持ちだったが、詩の方はモンクのように書いてみたいと望んだ。ジャンルは違いうのに、いつからかモンクに私淑し、文体・詩情なども影響を受けた。そのせいか、空間たっぷり、言葉少なく、いつとき独特のスタイルになって、それは今でも基本として続いている。

モンク・スタイルは禁欲的で、なかなか幅が広がらない。切りつめて切りつめて言葉を選ぶから、先にもあまり進まない。モンク自身がある程度作曲すると十分だったように、エッセンスで事足りてしまうところがある。

モンク・スタイルを脱するきっかけは「故園蕪村に遊ぶ」。もう一人の師である蕪村と、俳句と詩でセッションするような雰囲気、緊張も昂奮もした。その時に課したのが普通の（というのもおかしいが）スタイルで書くこと。まず空白行を封印した。これが案外新鮮で、そこからレスタ・ヤングの文体に惹かれるが、ここでは触れない。

モンクに習ったからといって、詩がモンク世界になったわ

けではない。モンクはずっと深く、豊かで、静謐な底にダイナミズムを秘めている。変人扱いされながら、じつに敬虔であり、諧謔風刺に受け取られながら、また真面目しんめいぼくである。寡黙にして饒舌の音空間を独特の間合いとリズムで躍る彼のピアノは、わたしなんぞの原稿用紙に言葉で記譜できるものではない。そんなことは初めから望みもしていなかったが、詩もまた音楽と同じく、空間を（言葉で）刻むものだということを教わったのは、誇りにしていると思う。



Monker

Monking

Monkology

女性

図書館でレコード・コンサートがあった。ある人のジャズ・コレクションが寄贈されて、それを活用していいこうという試み。その何回目かのDJを頼まれた。バド・パウエルの「哀愁のストックホルム」で拍手が湧き起こったり、オーネット・コールマンの「ハッピー・フル」がえらく新鮮に響いたりしたことを覚えているが、さて、モンクはどうだったか。セレクトに入っていなかったかもしれない。コーヒーが振る舞われ、終了後には特設本棚に並べられたジャズ図書が貸し出された。その中にモンクに関係する一冊を見つけて、ばらばらと繰った。目次の「モンクを巡る四人の女」という項目が目についた。ジャズ評伝はいつもこうだ、浮いた噂のなかったモンクまでが……と嘆息しつつさらにページを繰ると、四人の女の名前が次々に現れる。母親のバーバラ、幼馴染みで妻のネリー、娘のバーバラ、それにジャズ・パトロンのニカ男爵夫人。なあんだ、と脱力するとともに、改めてモンクのまじめな人柄を想った。

モンクの部屋の天井にはビリー・ホリデイの写真が飾ってあったという。



モンクの指輪

モンクの太い指。

鍵盤を叩く、

木槌のような堅い指。

右手の小指には大きな指輪をはめて、

それが演奏につれてずれてくる。

コン、ポコン

独特のモンクの間に、

指輪を戻す間が加わって、

オフ・ビートは

オフオフ・ビートになり、

さらに激しい右足のリズムが床を打って、

時間は揺れ

空間は揺れ

指輪がまたずれる。

モンクの指輪・続

指輪には、

MONK

と彫ってある。

これをこう、

ひっくり返せば、

KNOWと読める。

それが親父の誇りだった、

とドラマーの息子の

セロニアス・モンク Jr が

形見の指輪を回してみせる。

知ることは、

自分を発見すること、

自由を探索すること。

モンクは、

いつも自分の居場所を心に留めて、

八十八鍵の、

無限の空間をさすらっていたのだ。

モンクを巡って

モンクは

難解で

明解だ

躁から鬱に気象が変わって

波浪注意報が出たら

キーを確かめたらいい

じつにきっぱりと

不明瞭な声で

Dで

Gかい？

Pでもいい

Bだな？

好きなのでいいよ

親切に答えてくれるだろう

○

大切なのは

知ること

智だな？

自分であること

血かい？

自分と

物事のありかだ

地なの？

○

右回りに

考えると

明晰なのか

酩酊なのか

葛は

虚空に絡み

ぐるぐる

蝸牛は

悲しみを蓄える

ほら

螺旋で

天に昇っていく

ピンクの

八十八鍵の花

○

コン！

今

何と弾いた？

何か根っこの

魂のような

それでいて

紺の

混ざった

黄昏に

えらく

困り果てたような

※ take 2

コン！

今

何と弾いた？

何か根本の

魂魄のような

それでいて

紺青の

混雑した

黄昏こうこんに

えらく

困惑したような



夢男

黄昏は

妻と散歩と

男は決めていた

誰も二人の邪魔は出来ない

この黄金の黄昏は

男は

妻と

例えば静かに湖畔を歩くのだ

例えば森の神秘に触れるのだ

例えば密かな寢床で踊るのだ

黄昏は

妻と溶け合う刻

世界が裏返る刻

魂がさまよう刻

黄昏は

おのれを曖昧に

・
・
・
・
・

夜明けは

男は一人

黄昏の妻と別れて

長い夜を巡ってきた

誰も一人の邪魔は出来ない

世界の寝息

夢と

寝言と

彼方の太陽



モンクなひと

男は文無しで

ジゴロで

左回りの空想に耽りながら

鍵盤を叩いている

外は雨

通りでは傘が往き来する

上から見ると

黒い茸の国にいるようだ

みみを瞑ろう

つのを開こう

古い空想なんかしてないで

もっと宇宙な

たんぽぽな

未来な

てふてふな

雨は止んだか

虹は立ったか

左回りで考えて

右回りに踊ると

頭と体が交錯して

もつれかけんの

なんだかいぐあいだよ



ぶらぶら　ーブルー・モンク

春は訥々

星も鬱々

言葉少なに

挨拶交わし

路地から

路地へと

折れ曲がり

考え事もきれぎれに

空家一軒

恋猫二匹

宛はあったか

宛は行き過ぎ

朧な月に

影も持たず

用はあつたか

用は投げ出し

カッ

コッ

下駄の音を沈めて

初めての

路地に分け入る



俳句

訥々と夜長を渉るソロピアノ

初春のモンクに似たる石仏

梅一輪一輪咲いてモンクの忌

梅一輪しづかな蕊のピアノソロ



ブログ「六角文庫通信」より



2005.2.14

「モンクを描いた」

展覧会中に頼まれていた色紙を描き上げる。

「日々是笑日」。

残った墨でセロニアス・モンクにトライしてみた。

竹ペン、わら筆なども試しながら…。

ふうらはうまくいったが、

モンクは彼の楽曲のように、描きたくさせて、難しい。

2005.2.17

モンクの命日

雨。

帽子とレインコート。

（モンクを真似て）

ぐるりぐるり回ってみたくなったが思い留まる。

T-Time 小冊子「モンク・ブック」 未完成で延期。



モンクのアルバム二十数枚。

チャーリー・ラウズの入っている盤を避けるように収集したが、いまはむしろ彼のテナー入りカルテットを聴きたい。モンクの自然のようなものをそこに感じるから。

2008.10.10

「Monk's Birthday」

「MONKという名は、逆さにすればKNOWの綴りになる。」
なるほど。Kの向きは反対だが、モンクらしい読み取りだ。
「どんな時も知ることだ。」

知ることでありのままの自分でいられる。

そうしていればすべてが開けてくる。」

形見の指輪に刻まれた文字をモンク・ジュニアが180度回転させてみせる。



図書館に頼んでいた本が届いた。

『セロニアス・モンク 沈黙のピアノリズム』

『セロニアス・モンク 生涯と作品』

ちょうど、ピアノリストの誕生日。

こんなタイミングも、モンク・リズムなんだな。

jazz at WKCR では 24 時間モンクを放送中。

(Birthday Broadcasts)

モンクは毎年聴き逃していたから、今回はたっぷり楽しむことにする。

2009.9.20

夢うつつで聴くモンクは素晴らしかった

ふっと目が覚めると、きらきらする星の光。ころころするピアノの音。

昨夜の星の残像と、階下で流れるピアノがコラボレーション。

セロニアス・モンクは良く星を沸き立たせるなあ、と感心、下りて相棒にアルバムを確認すれば、

「the lionous monk with john coltrane at carnegie hall」だと。

しばらく夢うつつで聴いていたが、テナー・サククスなど耳になかった。

ジョン・コルトレーンは覚醒者しか相手にしてくれないんだな。

2012.6.9

「Three Wishes」

百匹の猫たちが暮らすニカ男爵夫人のキャットハウス。そこに出入りした三百人のジャズ・ミュージシャンの、「もしいま叶うとしたら」の「三つの願い」。

率直、珍妙、洒脱、いろいろな答えが聞けて、

そこからそれぞれの人間性が浮かび上がっても来る。



最初の回答者はセロニアス・モンク。

1. To be successful musically.
2. To have a happy family.
3. To have a crazy friend like you!

2012.10.10

セロニアス・モンク像二つ



秋の夜長はモンクと読書。

写真は金沢アトリエ館時代の本棚。

この陶像はHPにもブログにも登場しているが、音座の作ったセロニアス・モンク像はもう一つある。こちらも珠洲・中山達磨氏の正院窯焼成で、窯から出るとそのままそこに居着いてしまった。手元にはこの写真一枚あるのみ。元気だろうか。



生きていれば今日は95歳の誕生日。

生誕百年には何か記念小冊子でも作りたい。

愛聴盤三枚。

《Round About Midnight》Vogue

《Thelonious Monk Trio》Prestige

《Underground》Columbia

2014.2.17

ブルー・モンク、ブルー・ポエム

ブログ記事を書いて投稿する時に、あららと驚いていることがある。詩のカテゴリーを作っていないのだ。えっ！

と自分で呆れて、されど今更追加もというのでそのまま。

ブログをスタートしたのは二〇〇五年一月。詩は書かずもがな、というスタンスではいたけれど、そうか、詩はどこかでもっと深く断念していたのかもしれないな。表現は孤独な作業でいて、自分独りの営為では続かない。いつかだれかの胸に届くだろうと信じて、はじめて発信の力を得る。アイデンティティーを奪われるとどうなるか、身を以て体

験した。気力、意力はどこから出て、どこへ向かうのか思
い知った。



今日はセロニアス・モンクの命日。64歳（なんという若
さだ）。この稀代のジニアスは晩年の10年間、ほとんど
ピアノを弾かなかった。精神も身体も病んでいたとはい
けれど、そのことが信じられなかった。

バド・パウエルは独房の壁の架空の鍵盤を指で押さえて、
見舞いに来たエルモ・ホープに「この音はどう？」と尋ね

たという。そういう人たちなのだと思い込んでいる。信じ込んでいる。だからモンクが鍵盤にすら触れなかったことは気にかかる。

同様なことはドド・マーマローサにもユタ・ヒップにもある。それぞれに理由も事情も異なる。ほんとうのところは誰にも判らない。おそらく本人にも、そのようになる流れはどうしようも出来ず、なにか他人事のような哀しさもあったのではないか。

2011年に『春とピアノ』『春と石仏』を書いた。そこでドドやユタに思いを馳せた。ドドもユタもモンクも、もうピアノには戻って来なかったけれど、ぼくはなにやら詩に戻っているのか、いないのか。記事の投稿時に詩のカテゴリがないのに呆れ当惑しているのである。

この十年ほど、詩のカテゴリなど無くても事足りたのも事実。昔のどこかではぐれてから、詩も生も常に未明未開の「？」であって、それが時々小さな「！」に置き換わる。野に出て草花や小鳥たちと同じ空気を吸えばそうなる。それが出来なくなった、と嘆いているのではない。元氣になれば、またのこの野に出るだろう。籠もっていても、鳥や木や風のような声はある。セロニアス・モンクの

ピアノの音なんかもそれである。

今日も朝からたくさん聴いて一つの「！」を得た。それがまた新たな「？」を生み出していく。詩などは小鳥の地鳴きや囀りのように書いていたい。

7/24. Blue Monk



ブログ「マリカの野草画帖」より

2008.10.10

モンクス・ムード



モンクみたいなきのこに出会って描いた絵です。

今日はセロニアス・モンクの誕生日。

午後2時からネット・ラジオ、WKCR - Columbia University。
24時間モンクス・ミュージックが流れるので、ごきげん
です！

2009.11.10

iPhoneを鳴らしながら歩いてると

あらら、セロニアス・モンクは歩くリズムにぴったし。
今日の新発見です♪

2012.5.21

モンクと日食

朝6:30から8:30まで（金環）日食を観測。

コーヒーやスギナ茶、日食グラスも用意し、

椅子にはスケッチブックを乗つけ、

ピラカンサの木漏れ日に変化していくのを観察。

7:29:54には最大食であるオレンジ色の0.932部分食！

その少し前に空が少し陰り一瞬肌寒く感じました。

相棒がふうら像を撮影しているのを見て、

ふと閃いてセロニアス・モンク像を木漏れ日のなかに置いてみると、

なにやら日食のメロディとリズムが聴こえてくるようでした。



2012.10.27

雲のセロニアス・モンク

10月に入って晴れると雲が面白い。

10日のモンクの誕生日からずいっと探していたのですが、昨日午後3時の空、あっ、モンク！

一瞬顔を出したただけなので残像をスケッチ。



2013.7.29

モンクのパンフレット



神戸へ出かけたので海文堂書店を散策。

高野文子「るきさん」を買って階上の古書波止場もぶらぶら歩いていると

本棚に貼りつけてある本？にドキリとしました。

まるでレコードのような「MONK」。

盤が入っている様子もないけどお値段は5250円。

ビニール袋から出して見てみますか？という店番の女性の
コトバに甘えて手に取ってみると、

これは1965年来日時のパンフレット。

当時の熱気がビシリと伝わり、古書店さんと感心すること
しきり。

とてもいい目の保養になりました♪

2015.10.10

モンク日和

はい、今日の四つ葉だよ。

きのう目出度くも肺炎終息した相棒、

詩の師と仰ぐセロニアス・スフィア・モンクのために摘ん
できた。

船簞笥の中ではモンクのパースデイ・セッション。



2016.10.10

久々の秋晴れ

お弁当とお茶を持って秋草を見に出かけました。
標元にはセロニアス・モンクの缶バッジ。



今日は大好きなジャズピアニスト 99 歳の誕生日なのです。

2017.1.2

初詣とセロニアス

近くの住吉神社へ初詣。

おみくじは一番・大吉と出た。

頬もほころび続いて羅漢寺へ。

羅漢たちをゆっくり巡っていると、

あら？ モンクだ！



今年は生誕100年になるというジャズピアノの巨人
セロニアス・モンクを彷彿とさせる羅漢さんがいらっしや
るなんて。

羅漢寺では昨年、芭蕉翁と曾良っぽい羅漢さんも発見した
っけ。

お正月から新発見ありでうれしい♪



2017.1.2
Mayu

2017.10.10

セロニアス・モンク生誕百年

モンクがいる！というので裏庭に出ると
えっ！

木漏れ日にピアノを弾くモンク！（10:17）

『モンク・ブック』の編集に没頭していた相棒に思わぬ贈り物です。

それから百年記念に四つ葉を摘んで
モンク・トリオ♪



「Rokusanjin Twitter」 43



2014.2.17

W.H.Monk 作曲の賛美歌《Abide With Me》は誰にもノロをとらせず敬虔に進む。愛妻に捧げた《Crepuscule With Nellie》でも同じ。これはモンクのネリーへの賛美歌と言ってもいいだろう。

《Bye Bye When The Morning Comes》《Sweetheart Of All My Dreams》《Meet Me Tonight in Dreamland》《This Is My Story, This Is My Song》…モンクの弾く小品が好き。

2014.7.9

梅雨と台風で尋常じゃない湿気。水のような空気の中を、乾いたモンクのピアノがゆく。少しは除湿の効果がある。モンク流石。

2014.9.11

つれあいがナンバンギセルを貰った。俳句では思い草。じつと眺めていると、

思ひ草ジャズの名曲二つ三つ

「ジャスト・ア・ジゴロ」「煙が目にしみる」「センチになったよ」……セロニアス・モンクの愛奏する曲が聴こえてきた。

2014.10.10

モンクの弾く「セロニアス」。1947年と1968年の演奏を聴く。

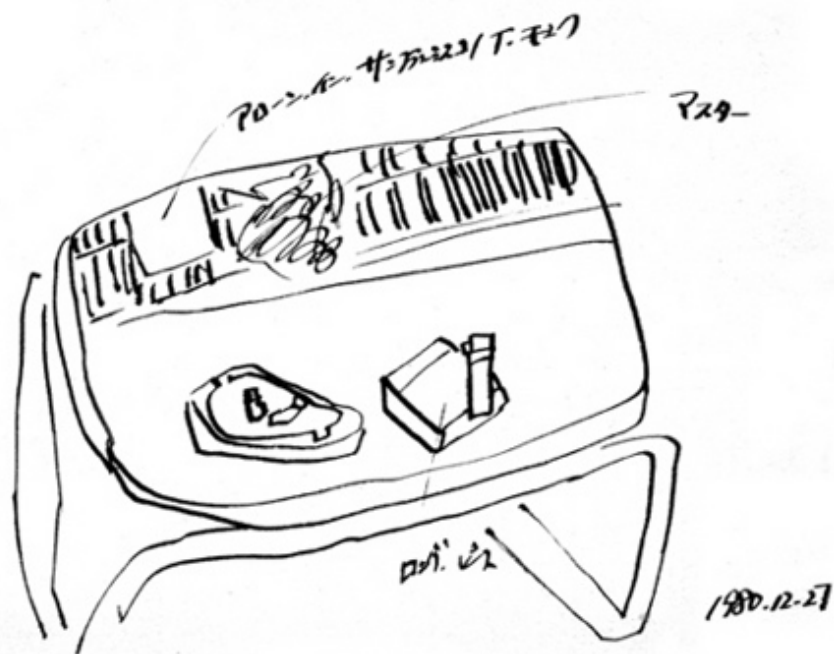
写真は音座マリカ作のモンク陶像。今日新しく撮った一枚。

2015.5.5

モンクの「Children's Song (That Old Man)」っていいね。
イギリスの民謡だったと思うけど、チューリップの歌にも似ている。チャーリー・ラウズの人のいいソロも温かい。セロニアス・モンクの童心の在りようって好きだな。

2015.6.17

今日は金沢のジャズ喫茶「ヨーク」のマスター奥井さんの十三回忌。この間ダンボール箱をござそして見つけたスケッチ。片町時代の店内で、ガラスのテーブルに映ったカウンター内の奥井さん。そしてレコード棚。流れているのはモンクのピアノ・ソロ。



2015.10.10

船簞笥の中で、セロニアス・モンク・バースデイ・セッション。四つ葉は今朝採集。陶像群は音座マリカ作。スターティング・ナンバーは「ブルー・モンク」。

2015.10.11

寡黙そうなモンクの（演奏中の）饒舌な手足と、流麗な音を紡ぎながらのパウエルのマシユマロのようなおとなしい手。不思議なものです。あのもぐもぐ口と唸り声も、どこか釣り合わないような……。

2016.2.17

エリック・ドルフィーの「Hat And Beard」（Out To Lunch）はモンクの肖像。ベースとドラムスの刻む彫りの深い時空

に、ヴァイヴの透明な響き。どこからかモンクがぬっと現れて、くるりくるりと回り、踊り出しそんな雰囲気。

十月生まれの二月の死者二人。安吾とモンク。四つ葉を一つずつ摘んだ。あ、この兩人にはもっと珍しい二つ葉の方が似合うかも



2016.10.19

「荒城の月」を聴く。

セロニアス・モンクで 16 分 40 秒。
ローランド・カークで 1 分 17 秒。

2017.1.1

モンクの「I Love You (Sweetheart of All My Dreams)」が終わり、「Rhythm-a-ning」で年を渡る。近くの寺へ鐘を撞きに行き、焚火と豚汁と生姜湯をご馳走になる。戻れば「I Want To Be Happy」を鳴らしていた。

生誕 300 年の蕪村（1716）から、
生誕 100 年のモンク（1917）へ。

酉年だからバードも登場。

二人の共演した「バード・アンド・デイズ」を聴く。



2017.1.2

「モンクみたいなひとがいる」

つれあいが案内紹介してくれたのはこのらかん。なるほどね。帽子といい、あごひげといい、なかなか Monkish。

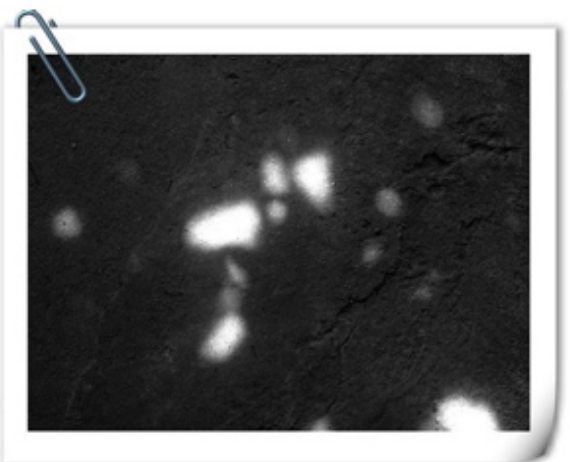
2017.2.17

青軸が一輪咲いた。暗い厨の窓辺。向こうの部屋からモンクのピアノが聴こえてくる。そうか、モンクの奏法は水墨の鉄骨画法に似て梅によく合うんだな。そんなことを思いつつ深夜のコーヒーを淹れている。

2017.4.20

Monkish and Tengish.

April in Monk

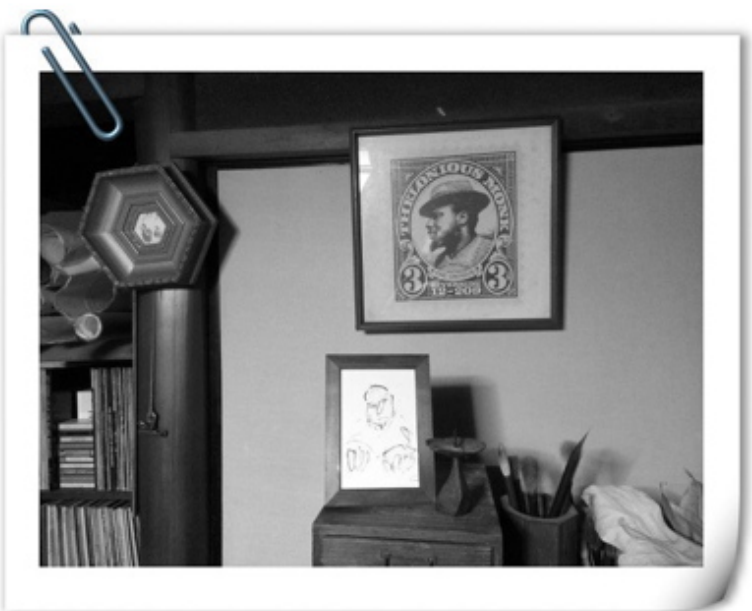


2017.8.20

モンクの『セロニアス・ヒムセルフ』。いま「ラウンド・ミッドナイト」が流れている。深くてしみみとした空間。訥々とゆき、たゆたう時間。闇の奥に浮沈する虫の音のようなピアノ。そこまで来ている秋をまさしく感じる。

2017.9.13

パーカーからモンクヘジヤケットを変えた。この額は「ヨーク」の奥井さんに貰ったもの。モンクは彼の最愛の音楽家でもあった。



2017.10.10

木漏れ日の中でピアノを弾くセロニアス・モンク。

10.10 10:14

生誕百年。



ジャイアンツ・オブ・ジャズ

ステージには

ガレスピーだかギレスピーだか、

伝説のパップの神様。

トランペットの朝顔を中空に向けて、

ラッパの

パップの

立派な音符。



これがジャズ
本物のビート、
口を開けたり閉めたり
ジャズの伝道師、
アート・ブレイキーの
ステイックが踊る。
ここどこ
そこどこ。



一九七一年の神無月。
京都の夜に五人の男。

ペースは巨人の、アル・マツキボン。

大きな手に

大きな呼吸。

うん

どん

（日本で聴くと）こん

いい演奏を、いい生涯を。



ぼんやり突っ立ちぼんやり伸びる、
トロンボーンとカイ・ウィンディング。

腕のV字を広げて狭めて、

ぼうぼう

（漢字で書けば）

茫々

夢々

遠くまで音は放浪してゆく。



さて、

最後に現れたのが

伝説のパップの高僧、

セロニアス・スフィア・モンク。

音は少なく

古今一音

大事に聴いて、

遠近一音、

深く噛みしめて。



ところで

ジャイアンツ・オブ・ジャズは
もともと六人、セブテットの予定。
一人来なかったのが、

麻葉嫌疑のソニー・ステイット。

アルト・サックスの代わりに

テナー・サックスの松本英彦が入った。

演奏は進むが、

バンドとしてはまとまらない。

ガレスピー

ブレイキー

モンク

それぞれの曲を採り上げて、

それぞれにたっぷりソロをとらせる。

ラウンド・ミッドナイトで

モンクの世界がやって来た。

モンクは独りモンクス・ムード。

あとは全員ジャイアンツ・ムード。

この日モンクは体調不良そうで、踊ることもなく、

ある曲の途中で立ち上がって、

そのまま袖に引っ込んでしまった。

それを道化した仕草で見送って、

ガレスピーがピアノの椅子に座り、

ポコッ、ペコッ、

二音三音真似して笑わせた。

失礼で茶目っ気なガレスピーは

モンクの留守のまま、

小粋なバラード演奏をした。

天井に向いて咲いていた朝顔、

袖に消えていったモンクの後ろ姿、

音はとくに忘れてしまったが、

この二つの光景だけはいまでも鮮明だ。



(附)

寒波、寒波

の

まま

往く

塵も立てずに

ただ

無音の

雪ジャングル

モンクに

二五時

無伴奏で

なむ！

一九八二年

一月
二月

淡々と人を襲うもの

ぐるり

芯へ
螺旋して

ボロ
続々

盗難
病臥
失職

ぐるり

音叉のように

33 1/3

亜片
断片

私にしても
正体のうすい一時期があった

39.5kg

ふらら
がらがら

「ブッチ・ウオーレンが弦を
弾きます」

降る

何某の
訃報の

ふたひらみひら

一方の
焦点で

だ円哀しく

二五時

モジョ！

??が

大好きだ

甲と
ひと言

卓上ピアノ

あるいは

短髪女のタミ声で

なむ！

（ライトニン！）

歩を
あるく

壱から

凡
北斗
大ヨーク

ぶあのぶあたる

歩が
歩の

歩を
歩が

氷点下の

おかめ
だるま
あかげ

「フランキー・ダンロップが
太鼓を叩きます」

二五時

無伴奏で

われら？

に

（ライトニン・ホプキンスが一月三十日に、
セロニアス・モンクが二月十七日にこの世から去る）

Thelonious Monk



TONIGHT • REFLECTIONS • SMOKE GETS
YOU NEEDN'T • EVIDENCE • MANGA
OFF MINOR • ERONEL

セロニアス・モンク生誕百年メモリアル・セッション 2017.10.10

音座マリカ

木漏れ日のセロニアス（写真）

モンク（ペン画）

夜明け（パステル画）

四葉とモンク（ペン画）

モンク陶像（珠洲焼）

花とビアニスト1（陶像）

花とビアニスト2（陶像）

ビアニスト（陶像）

セッシヨン ビリー・ホリデイ・メモリアル（陶像）

セッシヨン 船簞笥セッシヨン（陶像）

セッシヨン 生誕百年メモリアル（陶像）

※

マリカの野草画帖（抜粋）

泉井小太郎

モンクス・ノート（写真）

海に潜ったピアノ弾き（詩）

セロニアス・モンク（詩）

ソロ・モンク（詩）

モンクの指輪

モンクの指輪・続

モンクを巡って（詩）

夢男（詩）

モンクなひと（詩）

ぶらぶら（詩）

ジャイアンツ・オブ・ジャズ（詩）

寒波、寒波（詩）

ピアノ・ソロ（俳句）

※

夢／Tシャツ／看板／幻聴／回転（短章）

乗り物（断章）

小惑星（断章）

ミステリオース（断章）

帽子（断章）

小品（断章）

モンクと絵と詩と（断章）

女性（断章）

※

モンク（鉛筆画）

モンク（墨絵）

モンク1（葉書絵）

モンク2（葉書絵）

※

六角文庫通信ブログ（抜粋）

六山人ツイッター（抜粋）

モンク・ブック

a book round about Thelonious Monk

二〇一七年一〇月一〇日

音座マリカ

泉井小太郎

六角文庫

(c) rokkaku bunko 2017

